

平成30年度第1回若桜町総合教育会議 議事録

1 日 時 平成30年6月26日(火) 午前10時から11時4分

2 場 所 若桜町役場2階 第1会議室

3 出席者 町長 矢部 康樹
教育委員会 教育長 新川 哲也
委員 福田 浩子
委員 武田 恭二
委員 伊井野早苗
委員 森岡 則明
事務局関係 総務課課長 竹本 英樹
教育委員会事務局次長 山口由企夫
教育委員会事務局次長補佐 中田 幸一
総務課課長補佐 畷 友美

4 議事録署名人 委員 福田 浩子
委員 武田 恭二

5 協議事項

- (1) 学園におけるITの活用について
- (2) 学力向上及び児童生徒の様子について
- (3) 町誌編纂の進捗状況について
- (4) 伝統的建造物群保存地区に係る年間計画及び進捗状況について
- (5) その他

会議の経過概要

1 開会(総務課長)

運営要綱の第7条第3項に議事録は、町長が指名する2人の構成員の署名をもって確定するものとあるので、署名委員は福田委員と武田委員にお願いしたい。よろしくお願ひします。

2 あいさつ(町長)

教育施策の方向性や子どもの様子について、共通理解しながら教育行政に当たっていくことが大切だと思っているので、皆様のご協力をお願いしたい。

昨年度は、若桜町教育大綱を策定した。いろいろな課題等があり、皆様のご意見をいただきたい。コンピュータープログラミングの導入など、子どもたちが学ばなければならないことも増えてきている。若桜では子どもの数が減ってきており、それに対応した独自の施策を考えていく必要があると思っている。皆様のご意見をお聴かせいただき、それを行政の施策に活かして参りたいと思いますので、よろしくお願ひします。

3 協議事項

総務課長

会議録を作成するにあたりまして IC レコーダーを置かせていただいておりますので、御了承ください。

(1) 学園における I T の活用について

次長補佐

台数は 3 p にあるとおりで、これを使っていただいている。一番授業の中で活用しているのは、電子黒板、プロジェクターのようなもの。教材等を提示するのに一番よく使われている。今ある電子黒板 6 台をちょっと多めに、各教室にとか、体育館に電子黒板を移動するのは渡り廊下を通過して行くので段差もあって難しいので、体育館に常設があれば活用が増えていくのではないかと。

PC 3 3 台は、2 階の PC ルームに設置している。どの学年の生徒も一人 1 台使えるが、持ち運びはできないため、授業で決められた時間で使うしかない。

タブレットは 3 0 台、児童生徒用があり、授業で活用しているが、主は教員側の教材提示が多い。グループ学習やカメラ機能、ビデオ機能も使っているが、教員側の使用が多いと思う。

3 0 台だと 1 ~ 2 クラスしか使えない。小学校の校舎は遠いので小学校に何台か配置していただくとか、中学校に配置していただくとか、小回りがきく設置をしていただければ、活用の幅が広がるのではないかと。

町長

タブレットはどこに置いてあるのか？

次長補佐

2 階の PC ルームにある。PC ルームに鍵をかけて、その中の充電するためのボックスにも鍵をかけて、二重のセキュリティでしている。セキュリティボックスのようなものが小学校の各学年、各ブロックにあって、何台かずつ置ける状況にしたら。3 0 台を 6 0 台、9 0 台に増やす、というよりは、3 0 台を小分けにして、活用状況をみていくのも一つの方法だと思う。いきなり何十台も増やして、使いましょうというのは、活用状況としてはできていないと思う。使いやすい状況にするのが一つの目標かと思う。

町長

どの学年の生徒も使っているか？

次長補佐

使えるのは使えるが、小 1 ・ 2 年はあまり使う場面がないと思う。

町長

ソフトはドリル等が買ってあったと思うが？ 教材ソフトとか。授業で使うソフトはどのようなものか？

次長補佐

あります。e ラーニングで、公民館でやっている放課後学習で使うとか。

町長

授業で使うソフトも買ってあったと思う。それは使っているか？

次長補佐

使用頻度はよくわからないが、そんなに使ってないと思う。

町長

全学年でも使えるようになっているか？

次長補佐

中学校になると使いやすくなってくる。

町長

以前教育長にも話したが、IT系のものは先生にも得手不得手があるので、不得意な先生は使いにくいと聞いたことがある。今進んできているのが、IT教育の専門員、学習支援員。機械に触る人を別に配置しているところも実際にある。そんな要望は今のところないか？

次長補佐

研修をしたり、教えていただけたらいいし、補助していただけたら。常時いていただけたら。

町長

1週間の授業の中で、この授業とこの授業に入ってもらおうとか、事前打ち合わせをした中で入っている学校が県内にある。

教育長

今でも相談したいこととか、外部指導者から「こういう使い方もある」というような提案をもらったり、お互いに話をしながら進めていこうと。

次長補佐

ハードより人の方がありがたいと思う。

町長

教える人がいる方が活用は進む。

教育長

今の使用頻度では、電子黒板は使いやすいということか。

次長補佐

電子黒板やプロジェクターはよく使う。大きくして見せたいというところ。

教育長

今、電子黒板は6台配備してある。あと4台？ 普通教室に1台ずつあれば。今年から文科省では整備計画で1600億円ほど普通交付税に措置している。5年間、29年度から34年度まで。文科省から何台配備したか等の調べもあるので、交付税措置があるのに導入されていない、ということのないようにしなければ。

町長

電子黒板はパソコンとつながぐ、つないだ画面がタブレットにとんでいくことはできるか？

教育長

やろうと思えばできる。双方向で。あと良いのは体育で、電子黒板で自分が動いている様、フォーム等、自分がイメージしている動きと客観的に見た動きが違うというのはあるので、電子黒板に投影させれば分かりがよいのではないか。使い方としてはいろいろある。

総務課長

あと4台必要になるか？

教育長

あと4台、各教室に。体育館にも。

次長補佐

集めて見せて、授業で使う。

教育長

体育館、Wi-Fi がとばないのではないかと？

町長

とんでないが、とばすことはできる。

教育長

避難所にもしている。テレビを見たり、情報収集できるように。

町長

Wi-Fi は多分すぐできる。

伊井野

買ってもらったものをいかに効果的に活用するか。宝の持ち腐れにならないように。

次長補佐

学園の環境、機器は整っている。充実している。人を呼んで研修したりして、それを活用する方向にシフトする。

教育長

具体的にやりたいことを学校側から出してもらい、それに基づいて調整していく。

(2) 学力向上及び児童生徒の様子について

次長補佐

学力向上の去年の様子は分からないが、タブレットやeラーニング等、ハード面は整っている。テストで点をとっているのが学力向上なのか、子どもたちが外に向かって発信したり学問を迫及したりという意味での学力向上なのかによって、とらえ方が違ってくる。ハード面はそろっているので、それをどう活用しているかは、もうちょっと時間をとらないと成果は出てこないと思う。学習を深めていくかどうかは、学園でどう授業をしていくか、どうめざすかに関わってくる。子どもたちをどう育てていこうかというところで、授業を作っていく。

町長

eラーニングは希望すれば誰でもできるのか？

次長補佐

環境としては、できる。

町長

学校でもできるか？

次長補佐

はい。使おうと思えば使える。公民館でも放課後学習でやっている。設定さえすればできる。

総務課長

家からでもできる。

町長

夏休みもできるか？

次長補佐

eラーニングがいいのは、いつでもどこでも、好きなどころから始められ、繰り返せて復習もできる。予習もできる。基礎基本の力を伸ばし、学力向上になっている。

町長

家からでも個人にナンバーが与えられているのか？

森岡委員

学校から配られていて、家からも使っている。やれる人はどんどんやりましょう、という案内があって、何回か使っている。ゲーム感覚でやっている。

教育長

5年生以上83人を対象にしたアンケートで、タブレット・電子黒板を使うようになって良かったかという設問に、「はい」が81人、「いいえ」が2人。タブレットを使ったら分かりやすいとか、子どもたちが興味をもって手にとる、情報を集める力がついた、学習意欲が高まった等、否定的な意見はあまりない。変わらないという子もいるが。先生方も肯定的。使えば意欲が増している。ただ、リテラシー、トラブルになることもあるので、予め注意喚起をした方がとは危惧しておられる。子どもに任していたら何が起こるか分からない。

町長

夏休みは学習支援教室を行うのか？

教育長

15回ほどする。地元の方、OBの先生に協力していただいて、ありがたいと思っている。子どもの様子は、学校全体としては落ち着いている。

町長

学園は4年目？

次長補佐

24年度からなので7年目になる。

教育長

今月はあいさつ+ONE運動（の期間）。子どもは大きな声を出す、大人の方がどうだということがある。

伊井野委員

学力向上につながるような子どもの様子について。学習意欲があることが大事。若桜の子は、少人数で先生方が一人ひとりの良さを見つけて指導してくれるが、自分に対する自信、自尊感情が育ってないと、高校で広いところに出た時に今まで同じ友達で少人数で育ってきているから、挫折感を味わったりすることがある。機会を捉えて他の学校や地域に出かけて、誰とでも話ができたり慣れたりするコミュニケーション能力。テストに表れる点数だけでなく、そういうところの方が若桜の子には大事。学習意欲が育ってないと、家庭学習に向かう姿勢が全然違ってきたりする。家庭教育・家庭環境が整ってないとなかなか難しいと教育委員会でも話している。

教育長

少ない強みを生かして、どんな子どもでも必ず出番がある、そういうチャンスを活かしてほしい。学習でも運動でも、機会をとらえて。職場体験で会社の人と話をしたり、総合学習で地域の方とふれあったり。誇りが持てるような教育をしていきたい。心配するのは、高校に入った時に、恵まれた環境が故に、世の中の厳しさを味わった時にどうなるか。

福田委員

保護者の立場から言わせていただくと、小さい頃から保育料が無償で、町が子どもを大事にしてくれるという思いは親御さんも感じておられて、そのために引っ越して来られる人もあると思う。幼児教育の時点から周りが支援すれば、親御さんも「大きくなればいい」ではなく、小さい時から育てていくことが根っこにあって、そこから伸びていくという意識を家庭でできるという

環境が出来てきているのではないか。

高校・大学に入ってから挫折して紆余曲折を経ている人もあるようで、親としても悩む。森田先生も仰っていたが、家庭の教育力がある地区がある。そこから先伸びるというのは、小学校で真面目に勉強して、中学校でもやっている。義務教育ではやっているが、大学への進学率、その先はどうなんだとみた時に、伸びている地区には社会で活躍するモデルがあると仰っていたのが印象に残っている。教えられるというより、子どもは大人の姿を見て「ああいうふうになりたい」「こういう道がある」と思い描いて伸びて行こうとする。そこにヒントがあると思う。若桜に企業等がなくても、視野を広げる経験、交流、ITで交流する学校があつたりすれば、もっと外の情報が入ってきて、子どもも刺激を受けて、「やれよ」と言われなくても「やりたい」となってくれば理想。

伊井野委員

全国学力テストの（点数が）高い県の話だった。そこに研究視察に行ったら、「特別何もしていない」と言われた。ただ、子どもの目指すモデル、大人がいっぱいおられて、日常的に子どもたちは大人の姿を見て学んでいる。

次長補佐

学園の中で言うと、子どもの中でモデルが少ない。大きな学校ならモデルがいるので、「僕も頑張ろう」と思えるようなことが普段からある。若桜の場合はみんなが仲良く平均化した生活を送りがちなので、モデルになろうとする子どもが少ない。授業もよく出来ているが、授業で発表するにももっと深まったものを言えるようにしないと。もっと違った考え方を発表しようとか、一人が二つも三つもアイデアを出すようなことを習慣化させておかないと、先生に言われたとおりに素直に答えるので、それも良さだが、それ以上伸びない。大人・子どものモデルを仕掛けていくことがいるのではないか。

伊井野委員

上級生の中にいろんなモデルがいれば。僕もスポーツ頑張ろうとか、そういうふうに思えるモデル。大人を見る前に学校内で。

町長

社会人や大学生との関わりがあつた方が良いものなのか？

次長補佐

以前勤めた学校では、国際交流で映像で授業をやりとりしてロシアの子どもとリアルタイムで交流したりしていた。自然と外国語を使おうとか、同級生でも外国だとこんなに違うんだとか、そういう打ち上げ花火をいくつか仕掛けていくと、その中から「外国に行きたい」と英語を勉強したり、「こんなことをやっているなら僕たちもやってみよう」となったりする。不便だからこそICTをうまく使うと違う。

町長

光（ケーブル）を入れた時に、テレビ会議システムを入れた。（ITに）詳しい先生が使ってたが、異動されたら使われなくなった。

次長補佐

常駐で誰かが支援してくれたら楽。

教育長

学校ではそういった課題に対応して手を打って、町長部局にも協力してもらってほしいと思う。

(3) 町誌編纂の進捗状況について

次長

昭和57年3月に現在の町誌が発刊された。それ以降から現在までの全般に係る政治・経済・文化・歴史の分野の資料を収集して編纂するという基本方針のもと、平成29年度から編纂事業に取り掛かっている。今のスケジュールでは、平成31年度末発刊を目指しているが、なかなかスケジュールどおりにいかない。第1～7章建てで作成しており、第1章はほとんど終わったところ。執筆作業がなかなか叶わない。現在3分の1の進捗率。来月くらいには編纂委員会を開催し、進捗状況の報告や原稿の確認という作業をやっていく。平成32年3月の発刊に向けて進めたいと思っているが、執筆や校正、人選等に時間がかかる。スケジュールは変えたくないが、現時点ではちょっとえらいかという感じで進めている。

教育長

完成品は300ページ程度。写真や資料を集めているが、記録がなかなかなく、そうするうちに記憶もなくなり、執筆しようにも正確なことを載せるのがなかなか難しい。編集委員には県立図書館や新聞等いろいろ資料収集していただいている。専門家が執筆する記録だけではなく、各集落の出来事も掲載するため、集落の記事についてもお願いして出してもらっており、概ね集まりつつある。地元の記事が出ていると読んでいただきやすいので、集落記事を入れることに決まっている。平成31年度末発刊で進めており、若干遅れるかもしれないが、鋭意編集作業にあたっている。住民にも資料提供の依頼をしている。

(4) 伝統的建造物群保存地区に係る年間計画及び進捗状況について

次長

スケジュールでは、平成31年2月、文部科学大臣へ選定申し出予定。9月議会には保存条例の制定を上程する。これに伴い、各省庁・関係機関への協議も行う。条例に罰則規定を設けるため、検察庁と協議を進めている。国交省については、建築基準法の緩和が必要になるため、協議を進めている。伝建の保存に向けては、県の文化財課や文化庁と逐次協議をしながら事務を進めている。中でも地元の協力、該当される地区の範囲内の方については特に説明が重要であり、特定物件の同意取得については、正確には範囲は決めていないが、範囲でくくれるであろう特定物件が約110件あり、うち6割の所有者への説明は終わっている。非特定物件の方への説明は約50%。7月末までに全戸に説明を完了したいところ。同意取得については、条例制定後でないと同意できないということがあったり、それでは遅いので仮同意としていただいて、条例制定後に本同意とするというやり方もある。先進地と協議しながら、若桜町に合った事務処理を進めている。来月20日、文化庁から調査官が来町され、進捗状況等指導をいただくようにしている。

教育長

計画を作って、実際に重伝建に選定された場合、国からの財政支援があるが、それだけでなく活用する際には町にも財政的に配慮してもらわないと。保存だけでなく活用を全庁的に検討していってもらいたい。

次長

交付税は800万円？ 年間2～3件の修理・修繕しかできない。

教育長

なければ、町がモデル的に目に見える形でやっていかないと。

総務課長

新（あらた）の上下をやってみるのも面白いのではないか。

次長

まち並み環境整備と抱き合わせで。

総務課長

まちづくりの話もこれからしていかなければならない。その中の一部ということで。

次長

両方の事業を使って。

伊井野委員

先日武田委員から、せっかく伝統的建造物群保存地区をしたり、蔵通りの道を整備したりしても、〇〇さんの看板が目立つとの話があった。とらせてもらう訳にはいかないのか？

町長

勝手には取れない。

伊井野委員

亡くなっているが、その人が掲げた訳ではない？ 誰がされたのか分からないのか？

町長

〇〇さんです。話はしているが、取ってもらえない。

伊井野委員

対応はされているのですね。

教育長

道を直して雰囲気が良くなった。

(5) その他

町長

1点目。阪南大学と若桜町は連携事業をしているが、本年度は阪南大学の学生と中学生と一緒にまちづくり、特産品を考えてみようとしている。秋には発表会をさせていただくことになると思う。

2点目。氷ノ山スキー場は、若桜の子どもの利用が少ない。これまで割引券を出していたが、裾野が広がっていかない。今年度は無料券を進めたいと思っている。今年やってみて、底辺が広がらなければ考える。できるだけ底辺を広げたい。

3点目。まだ話し合いが十分ではないが、日本交通・JR・若鉄・県で、定期の一本化ができないか、協議を進めている。例えば若桜・鳥取間の若桜鉄道の定期を買えば、日交バスにも乗れる。全国的にもモデル地区・例があまりないが、協議のテーブルに載っている。

教育長

実現すると利便性が向上する。若桜に住み続けてもらうためには、公共交通を確保しないと。高齢者の免許返納、交通事故防止のためにも公共交通を利用してもらう。

リフト券の2分の1助成をしているが、どうですか？

森岡委員

ありがたい。スキー場にあまり来ない子どもにスキーをやって欲しいという思いがあった。助

成があれば、友達を誘いやすくなったり、学校に申請する手間もなくなり利用しやすくなる。

教育長

(無料券を) 試行してみる。

伊井野委員

県外に住む息子が、氷ノ山のリフト券は安いと言う。

森岡委員

一番安いと思う。安いだけがいいのではなく、他のスキー場もいろんなことをして頑張っているし、自分たちも頑張らなければいけない。

福田委員

去年まで若桜学園吹奏楽部はすごく頑張っていたが、人数がいなくて入学式でも2~3人でやってくれた。指導される先生はおられるし、したい人もいるのに、人数が少なくてできないという状況が何とかならないか。中学校の部活としてはできないかもしれないが、小学生でもやりたい人はいないのか。昔、小学生も管楽器を使ってやっていた。小学校高学年ならできるのではないか。せっかく芽が出たところをこれで終わってしまうのかと残念。現場の声は知らないが。何周年記念とかで盛り上げて、子どもに募って、先生に指導してもらって。夏には淀工の吹奏楽部が来て、いい循環になっているので、善処していただけないか。

教育長

学校とよく話してみないといけない。

次長補佐

若桜に音楽教室はあるのか？

福田委員

ピアノ教室はある。

教育長

樹氷太鼓もある。

次長補佐

小学校高学年で体験を積み上げればいい。小学校にはクラブもある。体育面はクローズアップしても芸術面は少ない。感性が豊かになり、学力向上にもつながる。淀工、いいモデルがある。

福田委員

大人だけで見ているのはもったいない。

教育長

6月に県民会館のサマーコンサート(サマーブラス)に3人で出た。

森岡委員

1学年に一人ずつしかいない。来年は3人入りそう。何でもそうなる。野球部も卓球部も。

伊井野委員

バレー部は市内の学校と合同チームで出られた。

町長

子どもの数が減ってきたので、今までと同じでは部活がなくなってしまう。何か手当を考えなければ。

教育長

学園と教育委員会も交えて、これからの部活のあり方や社会体育のことを考えていかなければ

いけない。少子化・過疎化で難しい面がある。

次長補佐

部活の文化面を軽く見ているところがある。部活というと体育、となっている。運動だけが全てでない。芸術的な面で伸ばしてあげれば、何か引き出せるかもしれない。

教育長

運動・文化、両方、バランスのとれたやり方で。